

Indeed Japan、「スポーツに関する仕事」について調査を実施 今話題の「ラグビー」の仕事は、2019年6月に急増、 5年間で仕事検索数は63.6倍、仕事数は138.8倍に！

世界 No.1 求人検索エンジン*「Indeed（インディード）」の日本法人である Indeed Japan 株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：高橋 信太郎、<https://jp.indeed.com>、以下 Indeed）は、「スポーツに関する仕事」について調査を行いました。

日本で国際大会が開催され、また、昨今の代表選手の活躍とともに人気沸騰中のラグビーですが、この人気の高まりを背景にラグビーに関連した仕事に就きたいと考え職探しをする人や、関連する仕事の数も増加していると考えられます。

そこで Indeed では、「ラグビー」に関する仕事検索数および仕事数の推移や、検索キーワード、仕事検索地域、募集地域についての調査を行いました。調査対象期間は、2014年10月から2019年9月の5年間です。

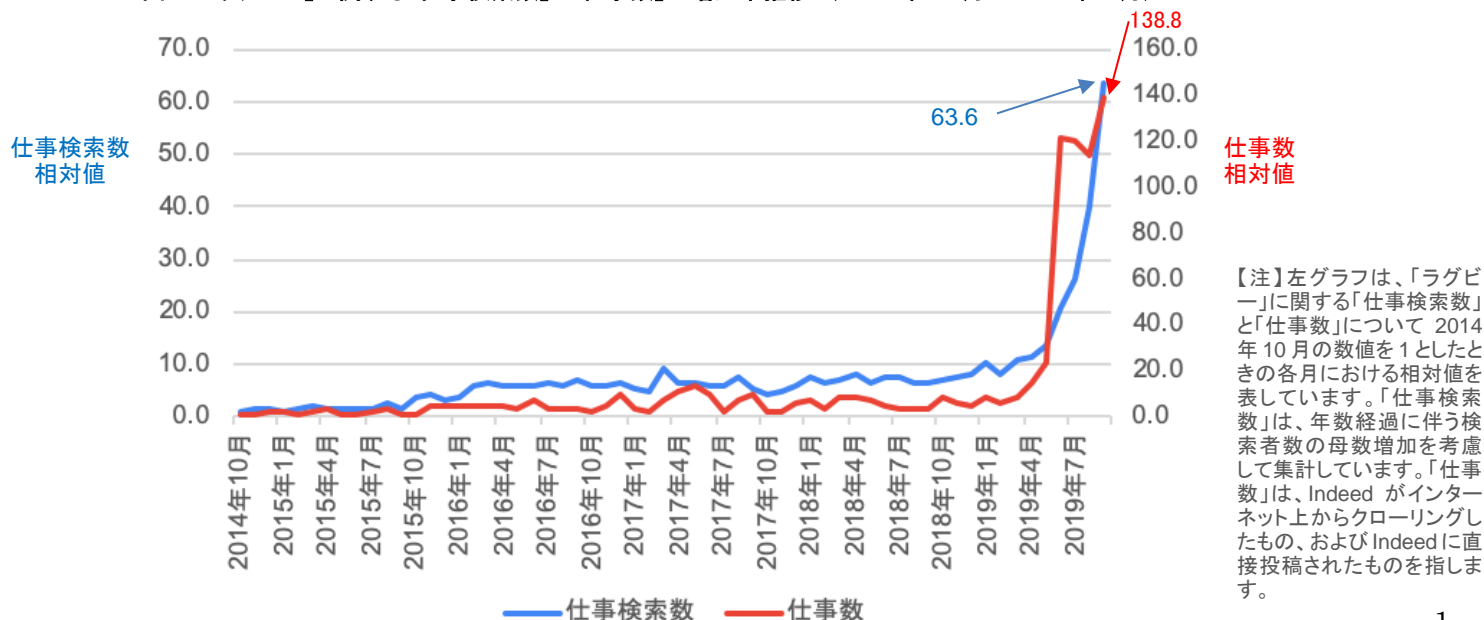
※「ラグビー」の他にも、昨今日本選手の活躍により人気が高まっている「バスケットボール」「テニス」、また、個人で取り組むことができるスポーツとして人気の「マラソン・ランニング」「登山」についても調査を行なっています。詳細は参考資料をご覧ください。

「ラグビー」に関連した仕事、5年間で検索数は63.6倍、仕事数は138.8倍に！ 特に2019年6月の伸びが顕著

■「ラグビー」の仕事の検索数トレンド

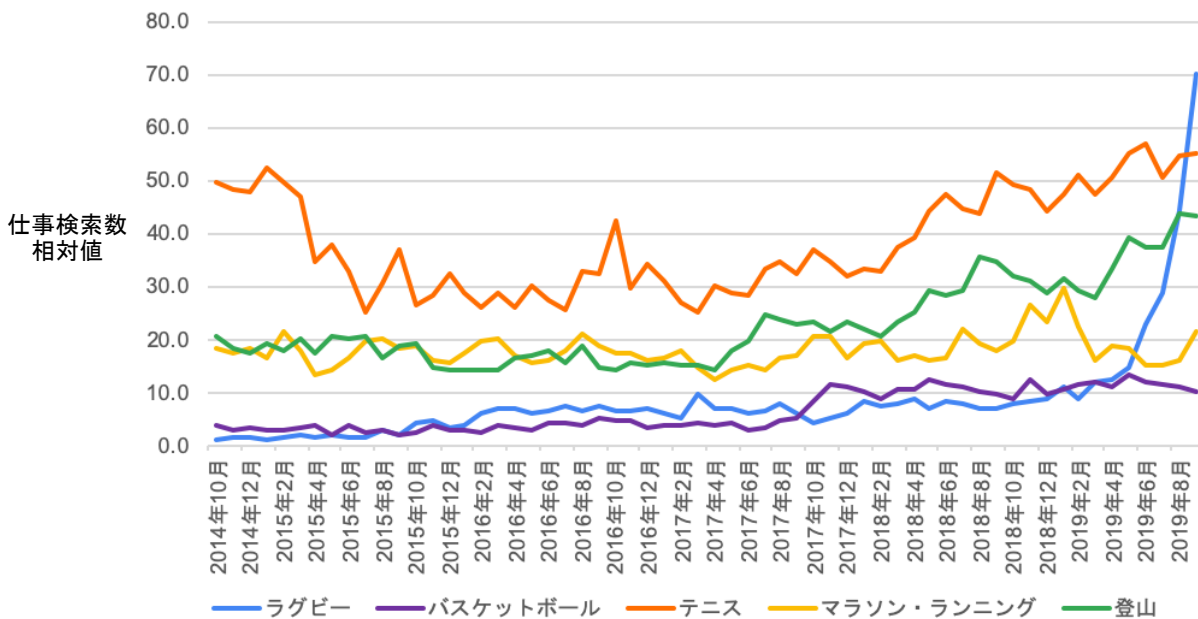
「ラグビー」に関する仕事検索数の推移を、2014年10月を起点に確認したところ、国際大会における日本代表チームの活躍が話題となった2015年10月には3.6倍となりました。その後ラグビー人気と連動するように仕事検索数は少しずつ増加の傾向にありましたが、日本での国際大会開催を控えた2019年6月を起点に急増。6月には20.6倍、7月には26.2倍、8月には40.0倍となり、大会開催中の2019年9月には63.6倍にまで増加しました（図1）。

図1：「ラグビー」に関する「仕事検索数」と「仕事数」の増加率推移（2014年10月～2019年9月）



なお、他のスポーツ(バスケットボール、テニス、マラソン・ランニング、登山)の仕事検索数と比較したところ、2019年6月には「マラソン・ランニング」の検索数を、2019年8月には「登山」の検索数を、さらに2019年9月には「テニス」の検索数を抜き上回っています(図2)。

図2:5 スポーツの「仕事検索数」の推移(2014年10月～2019年9月)



【注】上記グラフは、最も「仕事検索数」の少なかった「ラグビー」の2015年1月の数値を1としたときの、5スポーツの各月における相対値を表しています。「仕事検索数」は、年数経過に伴う検索者数の母数増加を考慮して集計しています。

また、直近1年間の「ラグビー」の仕事探しにおける検索ワードを確認したところ、検索数上位に「ラグビー ワールドカップ」「ラグビー 英語」「ラグビー 通訳」などがありました。国際大会に関連した仕事を希望する人が多かったことが伺えます。

■「ラグビー」に関連する仕事数トレンド

「ラグビー」に関する仕事数は2015年10月時点では2014年9月の1.1倍にとどまりましたが、国際大会終了後の2015年11月には4.7倍となり、その後ゆるやかに増加傾向にありました。その後、仕事検索数のトレンドと同様に、日本での国際大会開催を前に急増し、2019年4月に14.6倍、5月に23.6倍まで増加の後、6月には一気に増加し121.0倍となりました。8月には113.9倍とやや下がったものの、国際大会が始まった9月には138.8倍と過去5年間で最大の仕事数となりました(図1)。

また、直近1年間における「ラグビー」に関する仕事の内容を確認すると、「ラグビー ワールドカップの運営・受付スタッフ」、「ラグビーデータ分析」、「ラグビーショップ スタッフ」、「ラグビーチームクラブハウスの調理師」などがあり、仕事内容は多岐にわたりました。

■「ラグビー」の仕事検索地域／募集地域

2018年9月～2019年8月までの1年間における「ラグビー」の仕事検索地域を確認すると、東京・大阪で関連職を探している人が特に多く、東京での検索が全体の27.2%、大阪での検索が21.6%を占める結果となりました(表1)。「ラグビー」に関連した仕事の検索が行われている都道府県は、47都道府県のうち14都道府県に限られ、そのうち1位～12位は国際大会の試合開催地での検索でした。

先述のとおり直近1年間における「ラグビー」に関する仕事検索は、日本での国際大会開催に伴うものが多かったと

考えられることから、開催地を中心に大会に関連した仕事をしたいと希望する人が多く、仕事検索が行われた結果であると考えられます。

一方で、実際に仕事の募集が行われていた地域は、東京・神奈川・埼玉で 80%を占め、関東圏を中心に仕事があったことがわかります。

表 1:「ラグビー」事を求職者が「検索している地域」と実際に仕事を「募集している地域」一覧(2018年9月～2019年8月)

ラグビー				
順位	検索地域	%	募集地域	%
1	東京都	27.20%	東京都	37.7%
2	大阪府	21.55%	神奈川県	29.8%
3	神奈川県	14.32%	埼玉県	14.9%
4	兵庫県	8.71%	千葉県	7.7%
5	愛知県	5.29%	静岡県	2.9%
6	北海道	5.10%	大阪府	1.5%
7	大分県	3.69%	愛知県	1.2%
8	埼玉県	3.48%	—	—
9	福岡県	2.32%	—	—
10	静岡県	2.26%	—	—
11	岩手県	1.05%	—	—
12	熊本県	1.03%	—	—
13	宮城県	0.82%	—	—
14	千葉県	0.78%	—	—

昨今、盛り上がりを見せている「ラグビー」人気ですが、社会的な関心の高まりは、仕事にも影響を及ぼしていることがわかります。2019年6月の仕事検索数・仕事数の顕著な伸びは、ラグビー旋風を象徴する結果となりました。特に仕事数は2019年9月に過去最大となっており、日本での国際大会開催に合わせて、需要が増加した結果であると考えられます。

【「スポーツに関する仕事についての調査」調査概要】

- ・調査主体 : Indeed Japan 株式会社
- ・調査期間 : 2014年10月～2019年9月
- ・調査対象スポーツ : ラグビー、バスケットボール、テニス、マラソン・ランニング、登山
- ・調査方法

- 1.仕事検索数推移 : 日本において Indeed で検索された各スポーツの検索数を月毎で集計し、相対値として算出したもの。増加率推移は、各スポーツの2014年10月の仕事検索数を1とした各月の相対値を算出。仕事検索数推移は、2015年1月の「ラグビー」検索数を1とした各スポーツの相対値を算出。年数経過に伴う、Indeed 上での全体検索者数(母数)の増加分を考慮して集計している。
- 2.仕事数推移 : 日本において Indeed に掲載された各スポーツに関連した仕事数を月毎に集計し、相対値として算出したもの。増加率推移は、各スポーツの2014年10月の仕事数を1とした各月の相対値を算出。Indeed がインターネット上に掲載されている求人情報をクローリングして集めたもの、および、Indeed 上に直接投稿されたものを合算している。

Indeed について

Indeed は、世界で最も多くの求職者に利用されている世界 No.1 求人検索エンジン*です。現在 60 カ国以上、28 の言語でサービスを展開し、求職者はパソコンやモバイルで何百万もの求人情報を検索することができます。月間で2億5千万以上のユーザーが Indeed を利用**し、求人検索や履歴書の登録、企業の情報検索を行っています。

詳細は <https://jp.indeed.com> をご覧ください。

*出典: comScore 2019年3月訪問数

**出典: Google Analytics 2018年9月ユニークビジター数

本件に関するお問い合わせ先
 Indeed Japan 株式会社 広報窓口
 Tel: 03-6894-3201
 E-mail: jp-pr@indeed.com

【参考資料】

「ラグビー」と同様に、日本選手の活躍により人気の高まりが見られる「バスケットボール」「テニス」、さらに、個人で取り組むことができ、趣味として幅広い世代が実施するなどここ数年人気を博している「マラソン・ランニング」「登山」の4スポーツについても、5年間の仕事検索数の推移(図2)、および増加率(図3)を調査しました。

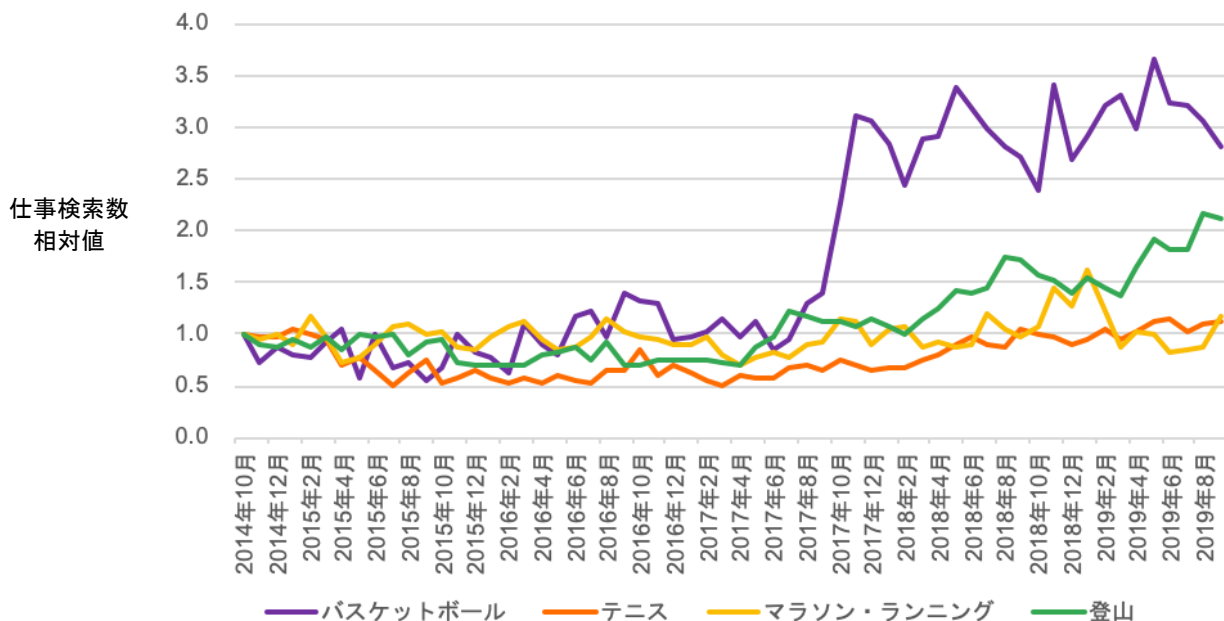
■ Topics

1. 仕事検索数の増加率、「バスケットボール」は5年間で最大3.6倍、ブーム再燃の「登山」は2.2倍に
2. 仕事数は、「テニス」関連職が多め、「登山」関連職はハイシーズンの4月～7月に増加傾向
3. 各スポーツの仕事が人気な都道府県にはバラツキが。「ラグビー」は試合開催地で人気の傾向。
「バスケットボール」は神奈川、「テニス」は大阪・兵庫、「マラソン・ランニング」は東京、「登山」は東京・長野で人気

1. 仕事検索数の増加率、「バスケットボール」は5年間で最大3.6倍、ブーム再燃の「登山」は2.2倍に

「ラグビー」と同様に、日本選手の活躍により人気の高まりが見られる「バスケットボール」「テニス」と、個人で取り組むことができ、趣味として幅広い世代が実施している「マラソン・ランニング」「登山」の4スポーツについても、5年間の仕事検索数の推移(図2)、および増加率(図3)を調査しました。

図3: 「バスケットボール」「テニス」「マラソン・ランニング」「登山」に関する「仕事検索数」の増加率推移
(2014年10月～2019年9月)



【注】上記グラフは、各スポーツに関する「仕事検索数」についてそれぞれの2014年10月の数値を1としたときの各月における相対値を表しています。「仕事検索数」は、年数経過に伴う検索者数の母数増加を考慮して集計しています。

■ バスケットボールの仕事検索トレンド

「バスケットボール」の仕事検索数の増加率は2017年10月に急増しており、2014年10月の2.3倍となっています。その後も増加傾向にあり、2019年5月には3.6倍になりました(図3)。5年間の仕事検索数の増加率はラグビーに次いで2番目に大きいスポーツであり、バスケットボール人気が直近2年間で高まってきている様子が伺えます。

■テニスの仕事検索トレンド

「テニス」は、今回調査した5スポーツの中で、もっとも仕事検索数が多いスポーツでした(図2)。しかし、2014年10月からの増加率を見ると「ラグビー」や「バスケットボール」とは異なり、直近5年間で仕事検索数が右肩上がり大きく増加したということではなく、0.5~1.2倍の幅でしか動いていません(図3)。2014年10月から2017年にかけては減少傾向にあり、2014年10月の水準を下回る状態が続いていましたが、2018年に入って再び仕事検索数が増加傾向に転じ、2019年には2014年10月水準まで戻っています。直近の仕事検索数の増加には、日本選手の世界大会優勝等が影響しているのかもしれませんが。

■マラソン・ランニングの仕事検索トレンド

「マラソン・ランニング」の仕事検索数は、2017年始めまでは「登山」と同等で「テニス」に次ぐ多さでしたが、2017年3月以降は「登山」を下回っています(図2)。仕事検索数は、夏季に少し減少する傾向はあるものの年間を通じて大きな動きはなく、5年間で仕事検索数は増減があまりながらもほぼ横ばいで推移しています。

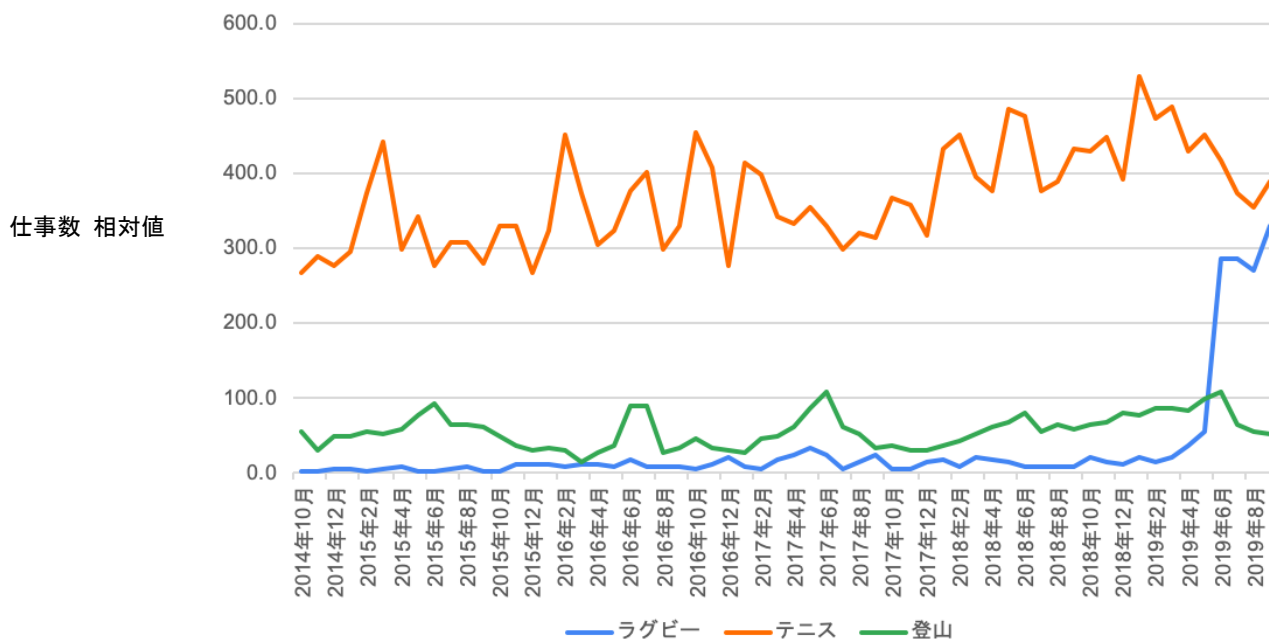
■登山の仕事検索トレンド

「登山」は、2017年3月から2019年7月にかけて、5スポーツの中でテニスに次いで2番目に仕事検索数の大きいスポーツでした(図2)。2014年10月を起点に、2017年4月までやや減少傾向にありましたが、2017年5月から増加傾向に転じています。2019年8月には、2014年10月の2.2倍の仕事検索数となりました(図3)。昨今言われているアウトドアブーム再燃を反映していると考えられます。

2. 仕事数は、「テニス」関連職が多め、「登山」関連職はハイシーズンの4月~7月に増加傾向

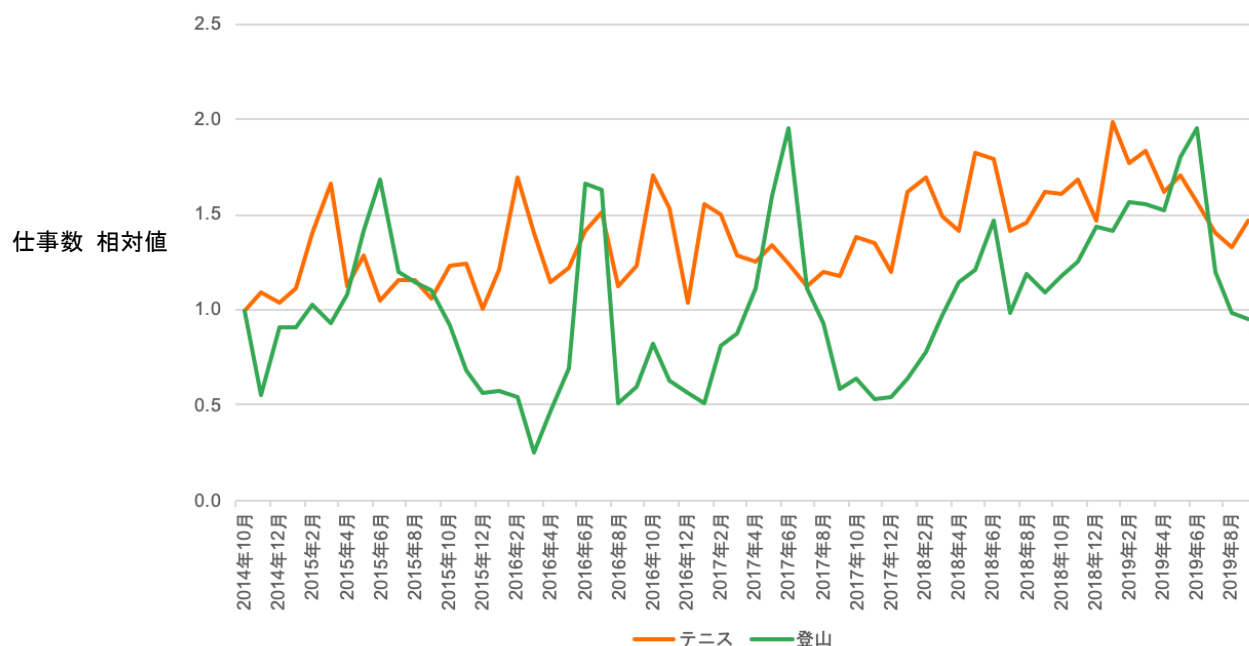
5年間で十分な数の求人数が出ていた「ラグビー」「テニス」「登山」について仕事数の推移(図4)を、そのうち「テニス」「登山」について仕事数増加率の推移(図5)を調査しました。

図4:「ラグビー」「テニス」「登山」の仕事数の推移(2014年10月~2019年9月)



【注】上記グラフは、最も「仕事数」の少なかった「ラグビー」の2015年6月の数値を1としたときの、3スポーツの各月における相対値を表しています。

図 5: 「テニス」「登山」の「仕事数」の増加率推移(2014年10月～2019年9月)



【注】上記グラフは、「テニス」と「登山」に関する「仕事数」についてそれぞれの2014年10月の数値を1としたときの各月における相対値を表しています。

■テニスの仕事数トレンド

「テニス」に関する仕事は過去5年間において、「ラグビー」「登山」と比較してより多くの求人がコンスタントにあったことがわかります(図4)。その中でも、2018年から増加傾向にあり、2019年1月に5年間の中で最も多くの仕事があった(2014年10月の2.0倍)ことがわかりました(図5)。

直近1年間(2018年9月～2019年8月)で募集されていた主な仕事内容は「テニスコーチ」「テニスインストラクター」「テニスクラブ スタッフ」などが多く、「ラグビー」とは異なりイベントや大会の運営スタッフなど短期的なものではなく、長期的にテニスと関わる仕事が多い傾向が見られました。テニス人気は以前からあり、趣味や習い事としても定着している可能性が考えられます。

■登山の仕事数トレンド

「登山」に関する仕事数には顕著な季節トレンドが見られました(図5)。6月をピークとしてその前後の4月～7月に仕事数が増えています。登山は夏がハイシーズンとなり実施人口が増えることに連動しているためだと考えられます。直近1年間で募集されていた主な仕事内容をみると、特に「登山、アウトドア用品販売」が多く、大会関連の仕事が多い「ラグビー」、スクール関連の仕事が多い「テニス」とはまた異なる傾向が見られました。

3. 各スポーツの仕事が人気な都道府県にはバラツキが。試合開催地で人気傾向のある「ラグビー」に対して、「バスケットボール」は神奈川、「テニス」は大阪・兵庫、「マラソン・ランニング」は東京、「登山」は東京・長野で人気

2018年9月から2019年8月までの1年間における、求職者が仕事検索している地域(以下、仕事検索地域)および、実際に仕事を募集している地域(以下、募集地域)それぞれについて調査しました(表2)。その結果、各スポーツの特性によって仕事検索地域、および、募集地域に特徴があることが見えてきました。

■バスケットボールの仕事検索地域／募集地域

「バスケットボール」の仕事については、仕事検索地域および募集地域ともに神奈川県が最も多い結果となりました。国内男子プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE (B リーグ)」のクラブチームが川崎、横浜と神奈川県内の2都市にあることから、会場スタッフなどのニーズが高いことが要因のひとつと考えられます。

■テニスの仕事検索地域／募集地域

「テニス」については、仕事検索地域および募集地域ともに幅広いエリアに分布していることが特徴です。「テニス」の仕事は全国的に広がっているとされます。さらに、検索地域は1位大阪府(12.8%)、2位兵庫県(10.2%)と関西地方でより人気であったことも特徴です。

■マラソン・ランニングの仕事検索地域／募集地域

「マラソン・ランニング」の仕事検索地域は、他のスポーツと比較しても特に東京での検索割合が多いことが特徴で、37.9%を占めています。2位は大阪 9.7%、3位は愛知 7.1%、4位は神奈川 7.0%でした。また、募集地域の上位もこの4都府県で占められています。仕事検索地域・募集地域ともに都市部に集中していることが特徴と言えます。マラソン大会やランニングイベントが都市部で開催されることが多いことが要因のひとつであると考えられます。

■登山の仕事検索地域／募集地域

「登山」については、仕事検索地域が幅広いエリアに分かれている一方で、募集地域が5都府県に限られていることが特徴です。仕事検索地域には、1位東京 18.5% に次いで、2位に登山の人気のエリアである長野県 15.4%が入りました。全国各地で登山に携わる仕事を探している人がいる一方で、実際の仕事内容は先述のとおり登山用品の販売職が多いことから、募集地域は限定的であったと考えられます。

表 2:各スポーツの仕事を求職者が「検索している地域」と実際に仕事を「募集している地域」一覧(2018年9月～2019年8月)

ラグビー				テニス				マラソン・ランニング						
順位	検索地域	%	募集地域	%	順位	検索地域	%	募集地域	%	順位	検索地域	%	募集地域	%
1	東京都	27.20%	東京都	37.7%	1	大阪府	12.84%	東京都	22.1%	1	東京都	37.86%	東京都	36.4%
2	大阪府	21.55%	神奈川県	29.8%	2	兵庫県	10.20%	大阪府	10.4%	2	大阪府	9.68%	神奈川県	25.0%
3	神奈川県	14.32%	埼玉県	14.9%	3	東京都	9.95%	愛知県	9.9%	3	愛知県	7.12%	大阪府	9.6%
4	兵庫県	8.71%	千葉県	7.7%	4	神奈川県	9.61%	神奈川県	7.9%	4	神奈川県	7.03%	愛知県	6.2%
5	愛知県	5.29%	静岡県	2.9%	5	福岡県	8.11%	埼玉県	7.1%	5	兵庫県	6.29%	兵庫県	4.1%
6	北海道	5.10%	大阪府	1.5%	6	埼玉県	6.96%	千葉県	5.9%	6	北海道	3.97%	京都府	3.3%
7	大分県	3.69%	愛知県	1.2%	7	千葉県	5.86%	兵庫県	5.5%	7	茨城県	3.36%	埼玉県	2.5%
8	埼玉県	3.48%	—	—	8	愛知県	5.41%	福岡県	3.9%	8	福岡県	3.29%	北海道	2.4%
9	福岡県	2.32%	—	—	9	京都府	4.62%	茨城県	3.8%	9	千葉県	3.00%	福岡県	1.9%
10	静岡県	2.26%	—	—	10	北海道	3.64%	熊本県	3.2%	10	新潟県	2.62%	—	—
11	岩手県	1.05%	—	—	11	静岡県	2.87%	北海道	2.5%	11	京都府	2.55%	—	—
12	熊本県	1.03%	—	—	12	宮城県	2.46%	岐阜県	2.2%	12	宮城県	2.53%	—	—
13	宮城県	0.82%	—	—	13	滋賀県	2.33%	三重県	2.0%	13	埼玉県	2.11%	—	—
14	千葉県	0.78%	—	—	14	奈良県	2.05%	滋賀県	2.0%	14	広島県	1.52%	—	—
バスケットボール														
順位	検索地域	%	募集地域	%										
1	神奈川県	27.42%	神奈川県	41.2%										
2	東京都	12.63%	東京都	36.7%										
3	愛知県	12.61%	埼玉県	12.2%										
4	大阪府	8.48%	千葉県	7.9%										
5	千葉県	7.72%	—	—										
6	埼玉県	6.42%	—	—										
7	静岡県	4.26%	—	—										
8	福岡県	3.21%	—	—										
9	兵庫県	2.31%	—	—										
10	北海道	1.77%	—	—										
11	栃木県	1.64%	—	—										
12	宮城県	1.32%	—	—										
13	京都府	1.32%	—	—										
14	沖縄県	1.28%	—	—										
15	広島県	0.88%	—	—										
16	茨城県	0.74%	—	—										
17	群馬県	0.70%	—	—										
								登山						
順位	検索地域	%	募集地域	%	順位	検索地域	%	募集地域	%					
1	東京都	18.50%	東京都	27.2%	1	東京都	18.50%	東京都	27.2%					
2	長野県	15.40%	大阪府	17.3%	2	長野県	15.40%	大阪府	17.3%					
3	北海道	8.73%	神奈川県	10.7%	3	北海道	8.73%	神奈川県	10.7%					
4	大阪府	7.54%	福岡県	7.8%	4	大阪府	7.54%	福岡県	7.8%					
5	神奈川県	5.11%	岐阜県	7.4%	5	神奈川県	5.11%	岐阜県	7.4%					
6	埼玉県	3.87%	—	—	6	埼玉県	3.87%	—	—					
7	福岡県	3.84%	—	—	7	福岡県	3.84%	—	—					
8	愛知県	3.68%	—	—	8	愛知県	3.68%	—	—					
9	兵庫県	3.65%	—	—	9	兵庫県	3.65%	—	—					
10	千葉県	2.81%	—	—	10	千葉県	2.81%	—	—					
11	静岡県	2.75%	—	—	11	静岡県	2.75%	—	—					
12	宮城県	2.52%	—	—	12	宮城県	2.52%	—	—					
13	石川県	2.26%	—	—	13	石川県	2.26%	—	—					
14	岩手県	2.13%	—	—	14	岩手県	2.13%	—	—					
15	山梨県	1.85%	—	—	15	山梨県	1.85%	—	—					
16	広島県	1.80%	—	—	16	広島県	1.80%	—	—					
17	京都府	1.65%	—	—	17	京都府	1.65%	—	—					
18	群馬県	1.38%	—	—	18	群馬県	1.38%	—	—					
19	茨城県	1.36%	—	—	19	茨城県	1.36%	—	—					
20	新潟県	1.34%	—	—	20	新潟県	1.34%	—	—					
21	岡山県	1.22%	—	—	21	岡山県	1.22%	—	—					
22	岐阜県	1.16%	—	—	22	岐阜県	1.16%	—	—					
23	栃木県	0.94%	—	—	23	栃木県	0.94%	—	—					
24	福島県	0.62%	—	—	24	福島県	0.62%	—	—					
25	富山県	0.57%	—	—	25	富山県	0.57%	—	—					
26	滋賀県	0.53%	—	—	26	滋賀県	0.53%	—	—					
27	鹿児島県	0.44%	—	—	27	鹿児島県	0.44%	—	—					
28	奈良県	0.36%	—	—	28	奈良県	0.36%	—	—					